

令和3年度

松茂中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的知識や技能を身につけるとともに、学んだことを活用する力を向上させるために、自分の思考の過程や課題を解決する力を育む授業づくり、ノートづくりを推進する。
- ②家庭での学習習慣の定着を図り、学力の向上を図る。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員
 城所 克弥 学校長:近藤太, 教頭:堀江豪人・田村浩志,
 教務主任:井村雅彦, 3年主任:石田俊子,
 2年主任(生指):松下拓司,
 1年主任(研修担当):森田百合子,

校長

近藤 太



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

授業改善・学習意欲向上班が、月に1度の会議で検討しながら、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的知識・技能においては、徳島県平均レベルの力をもっている。 ●基礎的・基本的知識・技能を「活用」する力に大きな課題がある。	・学習の積み重ねを大切に、小さなステップで学力の向上を意識することができる。 ・身につけた知識・技能を、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・単元テストを導入し、小さなステップで学習したことをフィードバックさせる。 ・授業ごとに「まとめ」を行い、他の学習とのつながりなどを想起させる。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○グループ学習が好きな生徒が80%近くおり、積極的に取り組むことができる。 ●一つ一つの知識を結びつけて、課題を解決したり、新たな考えを想像したりする力に課題がある。	・グループ活動などの話し合い活動を通して、課題を解決する方法を考えたり、最適解を見つけたりすることができる。 ・さまざまな知識を結びつけながら、課題を解決し、適切な言語活動により表現することができる。	・グループ活動や発表する時間を多くとり、アウトプットする機会をもたせる。 ・単元テストを導入することで、学力の定着を確認し、授業改善に生かしていく。 ・思考ツールを活用した授業を展開する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○一生懸命に授業に取り組む生徒がほとんどであり、家庭学習についても取り組むことができている。 ●自分で考えて学習する生徒は少なく、受け身で学習をしていることが課題である。	・教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・ノートの型を全教科で統一し、生徒が振り返りやすいものにする。 ・毎授業「課題」「まとめ」を明確に示す。 ・自主勉ノートに「めあて」の欄を設けさせ、自分がすべき課題を明確にさせる。			

令和3年度 学力向上ロードマップ

